

# **長岡市内遺跡発掘調査報告書**

日 越 地 区

栖 吉 地 区

中 沢 地 区

1993

**長岡市教育委員会**

## 序

長岡市には火焔土器で著名な馬高・三十稻場遺跡や「藤橋歴史の広場」としてオープンした藤橋遺跡の国史跡に指定された遺跡をはじめ、約250ヶ所近くの遺跡があります。国史跡や古墳・塚などは遺跡範囲の確認は容易ですが、縄文時代の集落跡などは規模等の概要が不明なものが多いため、このため、長岡市教育委員会は昭和62年度から国及び県の補助金の交付を受けて遺跡概要等の確認調査を実施して、遺跡が持つ情報の整備に努めてきました。そして、遺跡の保護と各種開発との調整協議に活用してきました。

平成4年度は、日越地区で計画された長岡市立養護学校建設、栖吉町での土地改良事業などに伴って、遺跡所在の確認と、中道遺跡及び松葉遺跡の確認調査を実施しました。本書はこの確認調査の記録です。調査の成果は既に調査結果に基づいて開発主体者等と協議を進めているなど、活用しています。

本年度の確認調査を進めるうえで、文化庁及び新潟県教育委員会をはじめ、関係各位から多大な御指導・御協力を賜りました。ここに心からお礼を申し上げます。

平成5年3月

長岡市教育委員会

教育長 大西厚生

## 例　　言

1. 本書は、平成4年度に実施した「長岡市内遺跡発掘調査」の記録である。
2. 調査は、国及び新潟県から補助金の交付を受けて実施したものである。
3. 調査は、長岡市教育委員会が主体となって平成4年4月から12月まで実施したものである。
4. 本書は、調査担当者が執筆・作成した。

## 目　　次

1. 日越地区	1
2. 栖吉地区	5
(1)調査地A	5
(2)調査地B	9
(3)中道遺跡	9
(4)松葉遺跡	14
3. 中沢地区	19
4. おわりに	22

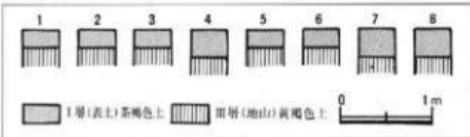
## 1. 日越地区

所在地 長岡市日越字原

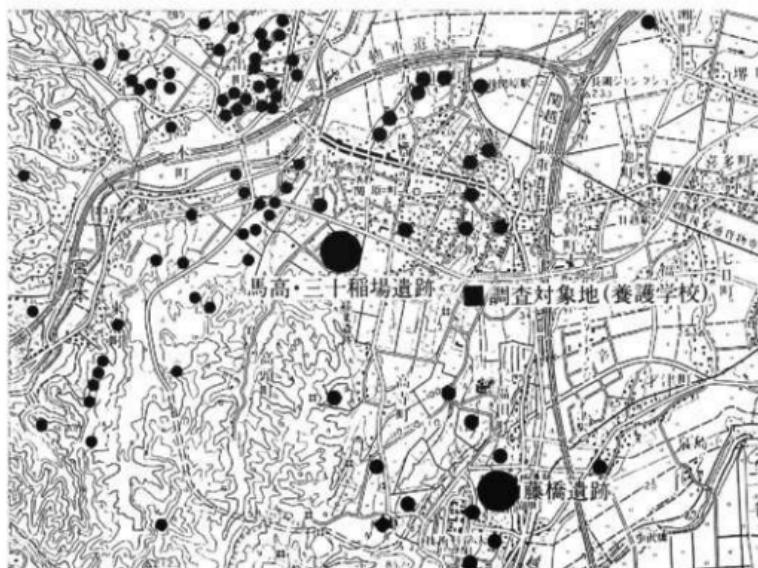
立地（第2・3図） 国道8号線の南側で、信濃川左岸の河岸段丘上に位置している。標高は約70m。現在は畠地。

調査（4月15日） 日越地区的確認調査は、長岡市立養護学校の建設予定地で行った。予定地には周知の遺跡は確認されていないが、近くには旧石器時代の長峰團地西遺跡や縄文時代中期の転堂遺跡などがあり、周辺には史跡馬高・三十稻場遺跡（縄文時代中・後期）、史跡藤橋遺跡（縄文時代晚期）など多数の縄文時代の遺跡が所在している。そのため、建設計画に合わせて確認調査を実施して、事前に遺跡所在の有無を確認することにした。

調査は、前年度に遺跡分布調査を実施し、今年度は $3 \times 4\text{ m}$ を原則とする調査グリッドを建設予定地全域にわたるように設定して遺構・遺物の有無を確認する発掘を人力で行った。



第1図 市立養護学校建設予定地の土層柱状図



第2図 調査位置図 (1/50,000)



第3図 調査地周辺の地形図 (1/10,000)

**調査の結果** 調査グリットは合計で26ヶ所（発掘面積は156m<sup>2</sup>）を人力で発掘して、遺構・遺物の検出に努めた。その結果、発掘した調査グリットからは遺構・遺物は全く発見されなかつた。

**土層序（第1図）** 調査対象地には、遺物を包含している土層の堆積は見られず、地山の黄褐色土の上には表上の茶褐色土が15~30cmが堆積しているだけであった。

**まとめ** 長岡市立養護学校の建設に伴う調査の結果、調査グリットからは遺構・遺物が発見されず、また通常長岡市内の台地上に見られる遺物包含層である黒色土層も見られず、遺跡は所在しないことを確認した。



第4図 市立養護学校建設予定地調査グリット (1/2,500)



調査地近景（南東から）



調査地近景（北から）



調査地近景（西から）



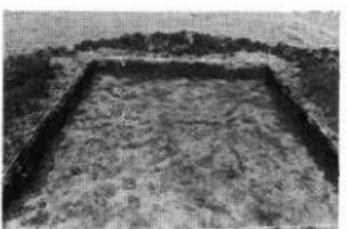
調査地近景（北東から）



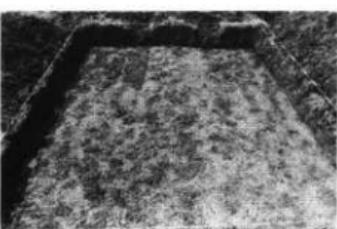
調査風景



調査風景



調査グリット完掘状況



調査グリット完掘状況

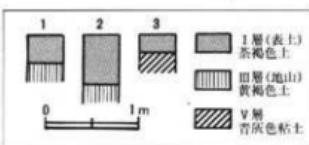
第5図 市立養護学校建設予定地確認調査

## 2. 栖吉地区

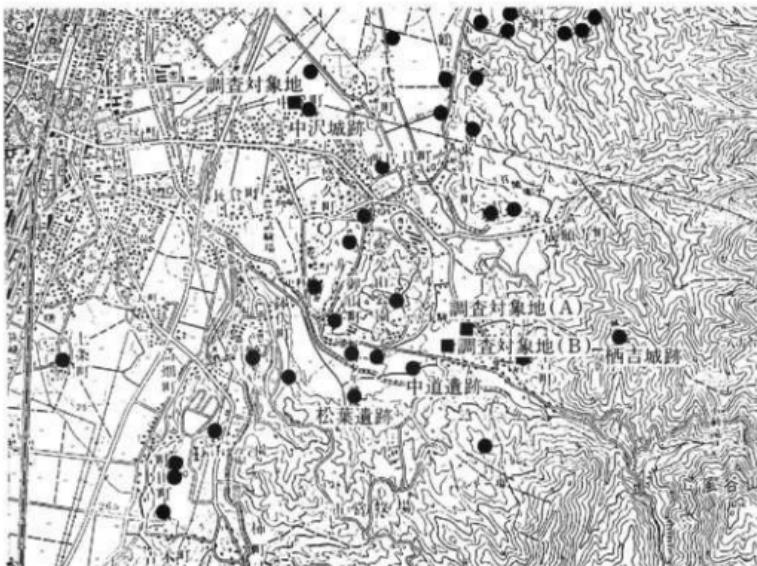
調査に至るまで 栖吉地区には縄文時代の中道遺跡、中世の三貫梨遺跡・栖吉城跡など多数の遺跡が所在している。この栖吉地区に水田の改良事業を中心とする中山間地域農村活性化総合整備事業が計画され、昨年度から事業地を対象に遺跡の確認調査を

実施してきた。昨年度の調査は、大明神・栖吉の2遺跡外で調査を行った。その結果、未周知の地域の3地点で中世陶磁器が1点づつ出土したこと、大明神・栖吉遺跡が事業計画地から外れていることを確認した。中世陶磁器出土の3地点は、次年度に調査範囲を広げて再確認調査を行うことにした。

平成4年度の調査は、中世陶磁器出土地点の再調査と、中山間地域農村活性化総合整備事業地内の松葉道路（未周知の遺跡）と、長岡市農業協同組合が主体の団体営圃場整備事業計画地内にある中道遺跡周辺を対象に実施した。なお、昨年度調査で青磁が出土した30G（昨年度調査グリット）は、事業計画から除外となり、調査からも除いた。

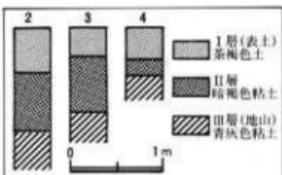


第6図 調査地A 土層柱状図



第7図 調査地位置図 (1/50,000)

**調査**（9月24日～10月13日） 調査は昨年度陶磁器出土地点の11Gを調査地A、2Gを調査地Bとして、バックフォーで、中道遺跡及び松葉遺跡周辺は人力で発掘を進めた。全体で744m<sup>2</sup>を発掘した。



第8図 調査地B土層柱状図

（1）調査地A（第6図・第7図・第9図・第10図）

所在地 長岡市柄吉町字北原

立地（第7図・第9図） 柄吉川右岸で、標高約70cmの扇状地に位置する。現況は階段状に改良されている水田である。

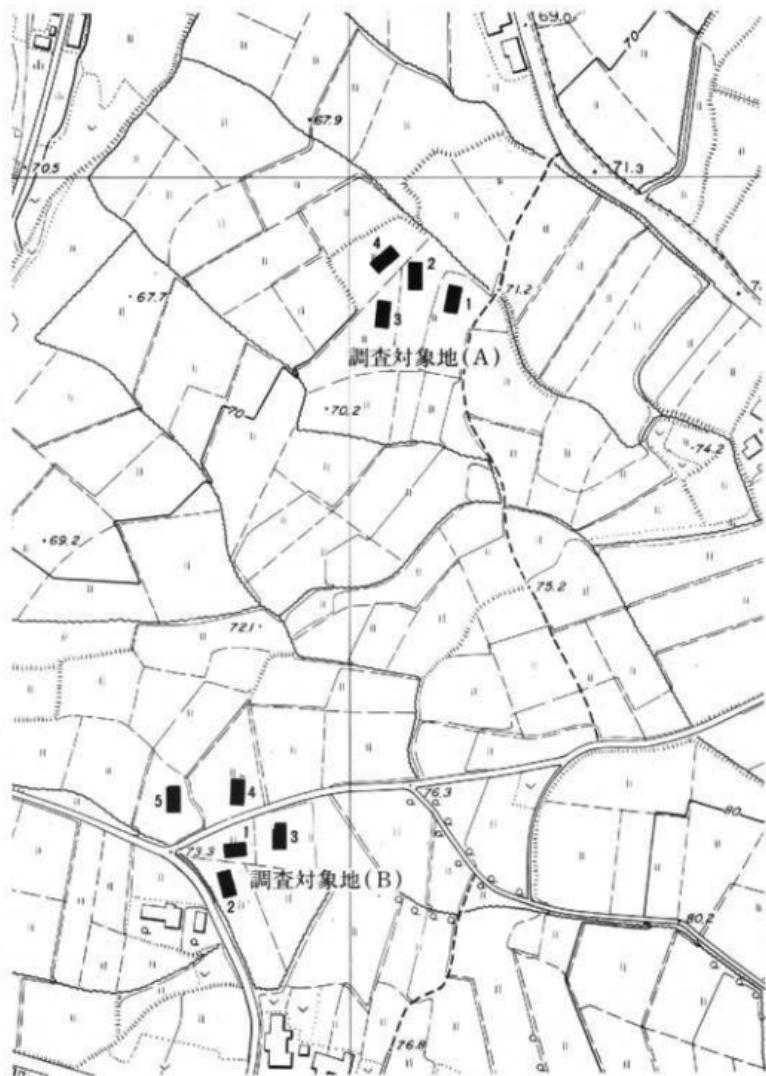
調査の結果（第10図） 平成3年度の確認調査で中世の青磁が1点出土した地点である。

調査は出土グリットを中心<sup>3</sup>に3×10mと3×15mのトレーナーを各2ヶ所設定して、バックフォーで発掘する。面積は150m<sup>2</sup>。今次調査では遺構・遺物は全く検出されなかった。

土層序（第6図） 調査地の上層は、深いところで約60cmを測る耕作土の表土以下がすぐに地山となる。地山は上段の1・2Gが茶褐色土、下段の3・4Gが青灰色粘土となっており、かつて下段は水に浸かっていたことが考えられる。



第9図 調査地周辺の地形図（1/10,000）



第10図 楠吉地区調査グリッド図 (1/2,500)



調査対象地遠景（南から）



調査対象地（B）近景（東から）



調査対象地（B）近景（南から）



調査対象地（A）近景（東から）



調査対象地（A）近景（南から）



調査風景



調査対象地（A）1G 完掘状況



調査対象地（B）5G 完掘状況

第11図 栖吉地区確認調査

**まとめ** 調査地Aでは遺構・遺物が検出されず、土層からも遺跡の存在は考えられない。

#### (2)調査地B (第7図～第10図)

**所在地** 長岡市柄吉町字中道

**立地** (第7図・第9図) 標高約73mの柄吉川右岸の扇状地に位置する。現況は水田。

**調査の結果** (第8図・第10図) 昨年度の調査で、中世の珠洲焼が出土した地点を中心にして3×10mのトレンチを5本設けてバックフォーで発掘する。遺構・遺物は発見されなかった。

**土層序** (第8図) 習作土(表土)・暗褐色粘土・地山の青灰色粘土の地層であり、調査地はかつて水に浸かっていたことを示しているものと思われる。

**まとめ** 土層序の所見並びに遺構・遺物が発見されないことから、調査地は遺跡でないことを確認する。昨年発見の珠洲焼は上流域からの流れ込みと考えられる。

#### (3)中道(なかみち)遺跡 (第9図・第12図～第16図)

**所在地** 長岡市柄吉町字中道

**立地** (第9図・第13図) 柄吉川右岸で、東西方に舌状に延びる台地上に位置している。標高は約67～70mを測る。北は東からの沢が入り、南は柄吉川の河川敷に続く沖積地となっている。現況は畑及び水田である。

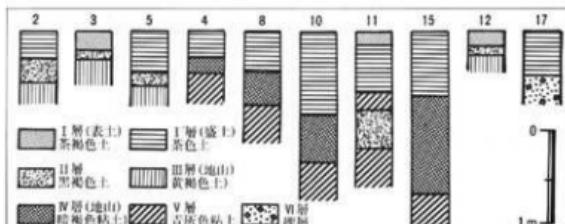
**調査の結果** 長岡市農業協同組合が主体の団体営圃場整備事業が計画されたため、中道遺跡の範囲等の確認調査である。調査は3×4mを原則とする調査グリットを18ヶ所設定して人力で行う。調査面積は216m<sup>2</sup>であった。縄文土器や中世陶磁器が出土したが、遺構は発見されなかった。

**土層序** (第12図) 農家個々で水田の改良工事を行っており、盛土(1'層)が多くのグリットで見られた。縄文土器等の遺物はⅡ層黒褐色土に包含されていた。遺物包含層が見られるのは、第13図で格子目で囲った範囲と12G・13Gに限られた。

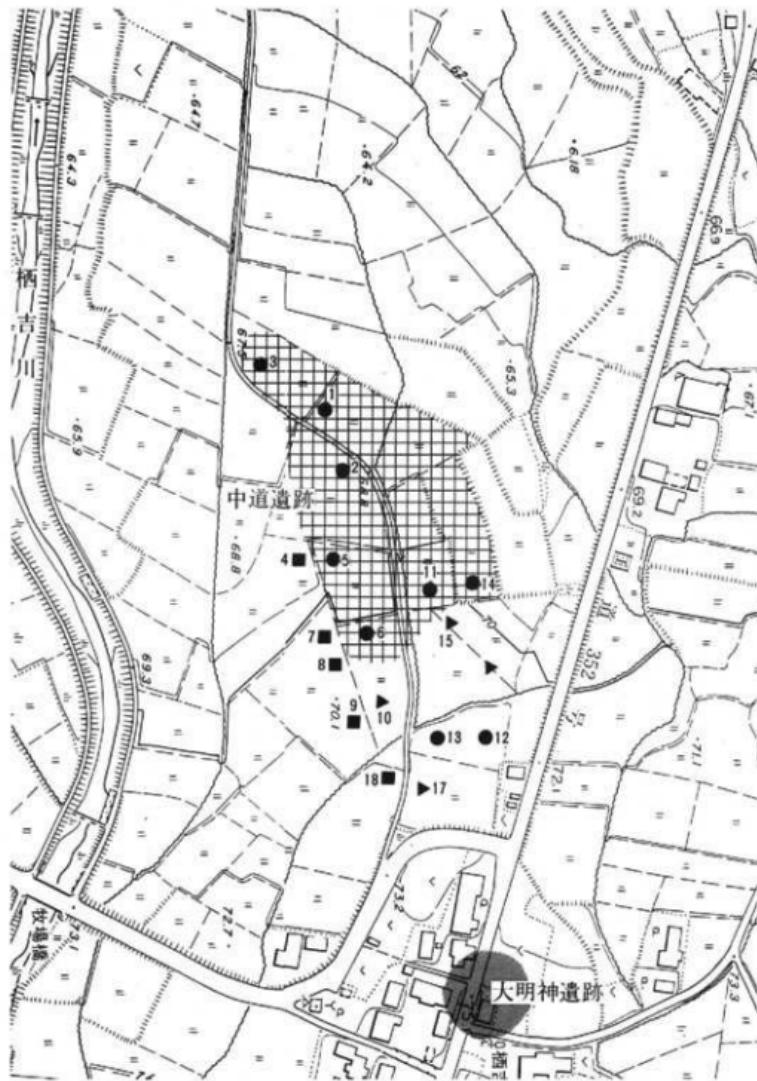
#### 遺物 (第14図・第15図)

出土遺物は、縄文土器が約800点(重量約15.6kg)、石鎌1、打製石斧1、中世の珠洲焼3、青磁1である。

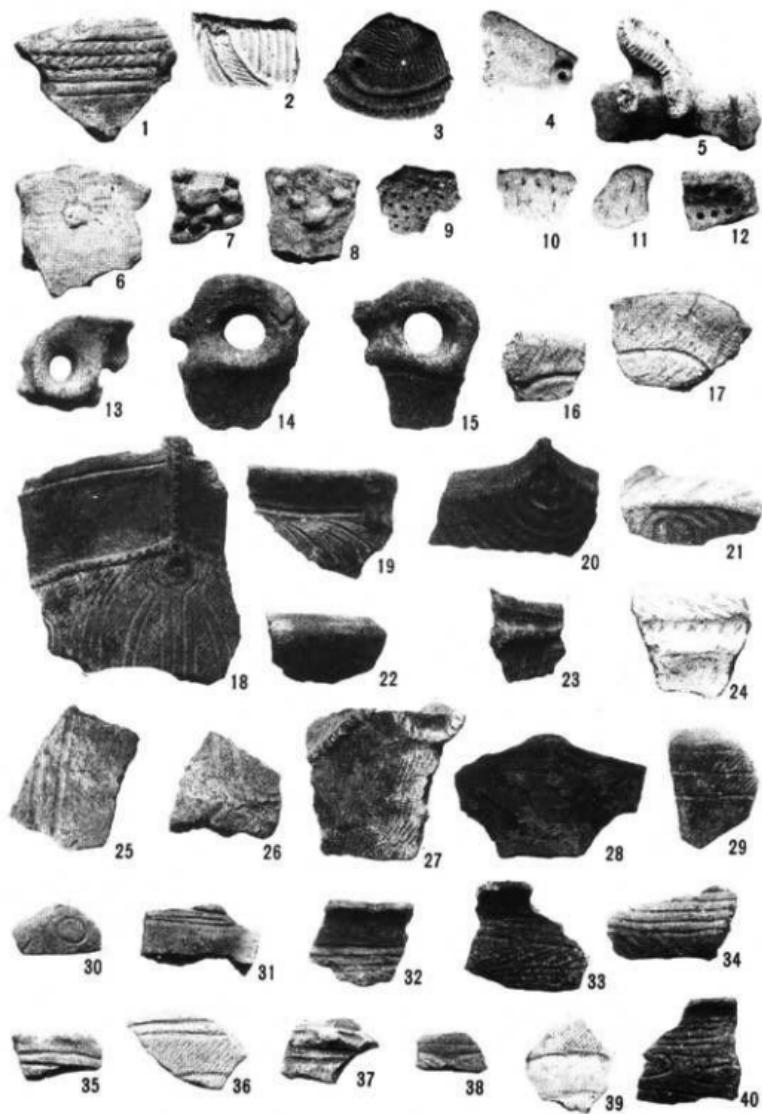
縄文土器は中期前葉(1)・中葉(2)



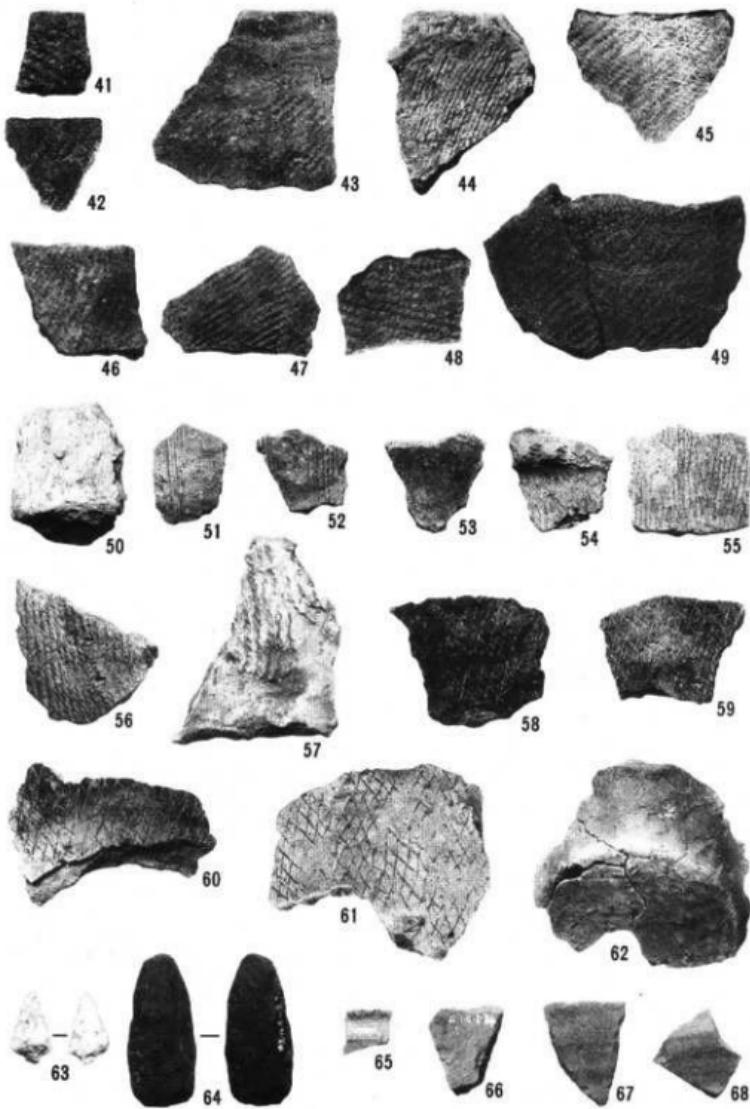
第12図 中道遺跡土層柱状図



第13図 中道遺跡調査グリット図 (1/2,500)



第14図 中道遺跡出土遺物



第15図 中道遺跡出土遺物(2)



中道遺跡遠景（西から）



中道遺跡近景（南から）



調査風景



調査風景



石鎌出土状況（13G）



縄文土器出土状況（14G）



11G 土層断面



12G 実掘状況

#### 第16図 中道遺跡確認調査

が少量、後期前葉の三十稻場式（3～27）が主体で、次いで後期中葉（28～29）、晚期前葉（30・31）及び晚期中葉（32～40）の土器が出土している。3・4は三十稻場式の蓋形土器で、刺突文が見られる。繩文（41～49）、柳描文（50～53）、撚糸文（54～57）、格子目撚糸文（58～62）の粗製土器が多数出土しているが、格子目撚糸文が晚期と思われるほかは、所属時期が不明である。石錐（63）は有茎で、基部にアスファルトが付着している。打製石斧（64）は長さ約8cmの中型品である。

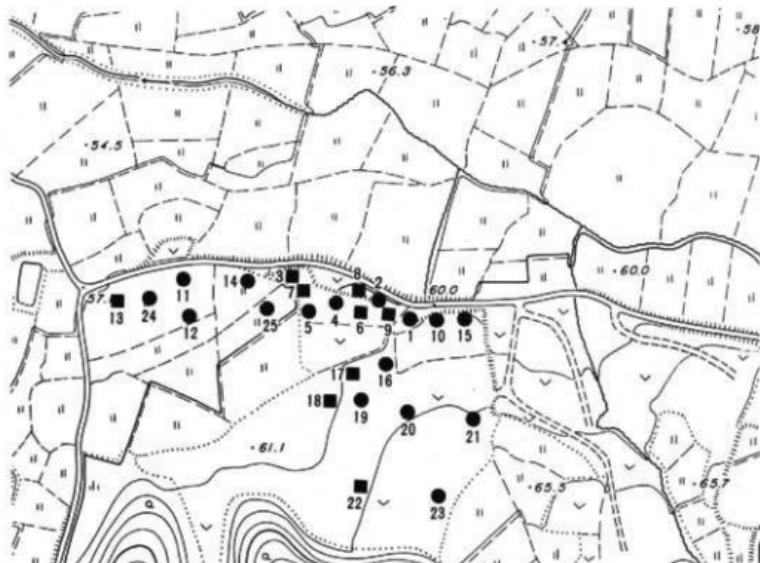
中世の陶磁器は、青磁の碗（65）と珠洲焼の壺（66～69）だけである。

**まとめ** 遺物が出土した箇所は第13図で格子目で囲った範囲及び12G・13Gで、遺構は発見されなかった。格子目範囲と12G・13Gとの間には小さな沢が入っており、12G・13Gは東に位置する大明神遺跡の縁辺部の可能性が考えられる。中道遺跡の範囲は、遺物出土位置及び地形などから格子目に囲った所と考えられる。面積は約9,200m<sup>2</sup>である。

#### （4）松葉（まつば）遺跡（第9図・第17図～第21図）

所在地 長岡市栖吉町字松葉

立地（第9図・第17図） 栖吉川左岸の丘陵縁辺部に位置する。標高は約57～61m。水



第17図 松葉遺跡調査グリット図 (1/2,500)

田・畑及び雑草地となっている。北側は、柄吉川へ続く沖積地の水田である。

**調査の結果** 今次調査は、中山間地域農村活性化総合整備事業の圃場整備地とそれに伴う市道予定地を対象に確認調査を実施した。調査グリットは $3 \times 4\text{ m}$ を原則として、耕作地はグリットを縮小して設定した。また、南の限界を探るため、市営牧場の牧草地の一部に調査グリットを設けて調査を行った。調査面積は約 $228\text{ m}^2$ であった。遺物は調査対象地のほぼ全域から縄文土器などが出土した。遺構は発見されなかった。

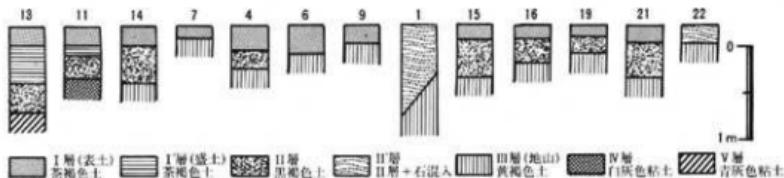
**土層序** (第18図) 遺物包含層と思われるII層(黒褐色土)が約 $20\sim 40\text{ cm}$ ほど見られる箇所が多い。II層のない7・9・22Gは表上の堆積が浅く、直ぐに地山の黄褐色土になる。

**遺物** (第19図・第20図) 遺物は縄文土器が約240点(重量約5kg)、土偶1、打製石斧8、須恵器2、中世の陶磁器が出土している。

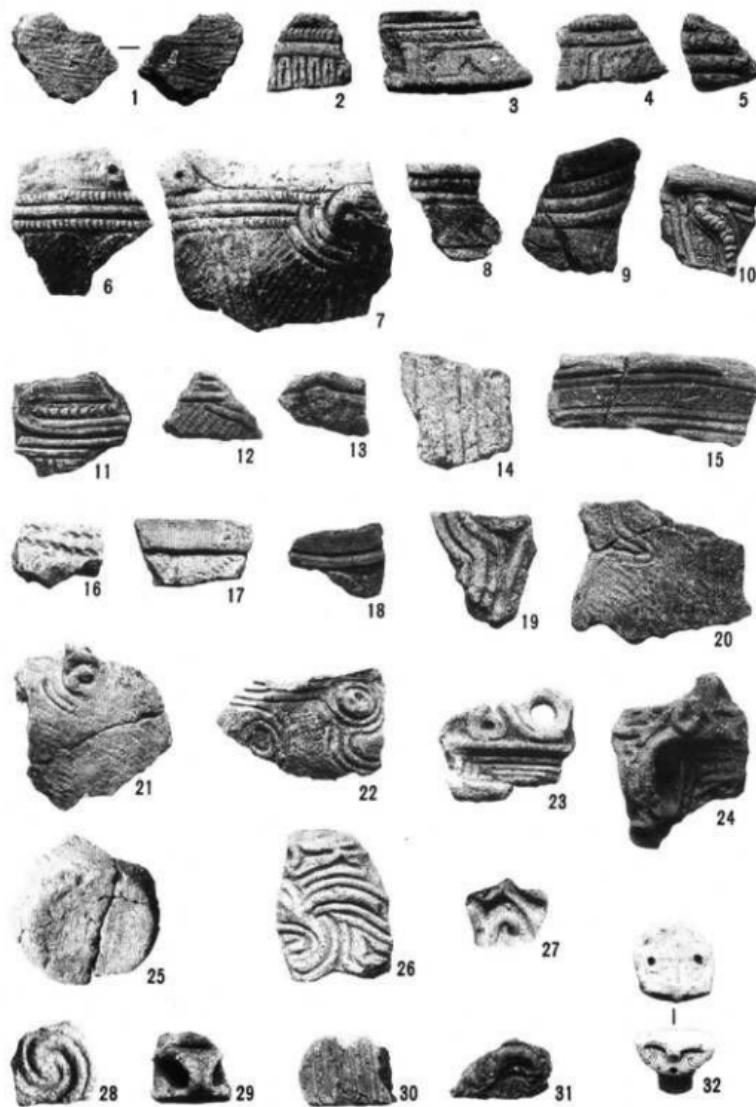
縄文土器は爪形文などの中期前葉(2~20)から半隆起線文や火焰形土器等の中葉の土器(21~31)が主体的に出土しているが、中に縄文早期後半の条痕文土器(1)が1点ある。信濃川右岸では早期後半の上器出土例はこれが最初かと思われる。表裏両面に条痕文があり、胎土に纖維が混入している。土偶(32)は頭部に2個一対の穴があることと、顔の表情から中期中葉の典型的な土偶である。打製石斧はラフなつくりで、1G及び16Gに限って出土し、打製石斧の製作跡の存在が予測される。

須恵器は甕の頭部(48)と叩き目が残る胴部(47)破片が各1点ある。おそらく奈良時代の所産と思われる。中世陶磁器は珠洲焼の甕(49~51)が3点、片口の措鉢(52)と措鉢の胴部(53)破片が各1点づつ、青磁の碗(54・55)が2点、白磁の碗(56)が2点、染付の碗(57)が3点、それに天目茶碗(58)が1点ある。中世陶磁器の時間は、珠洲焼の措鉢の形態から15世紀と思われる。

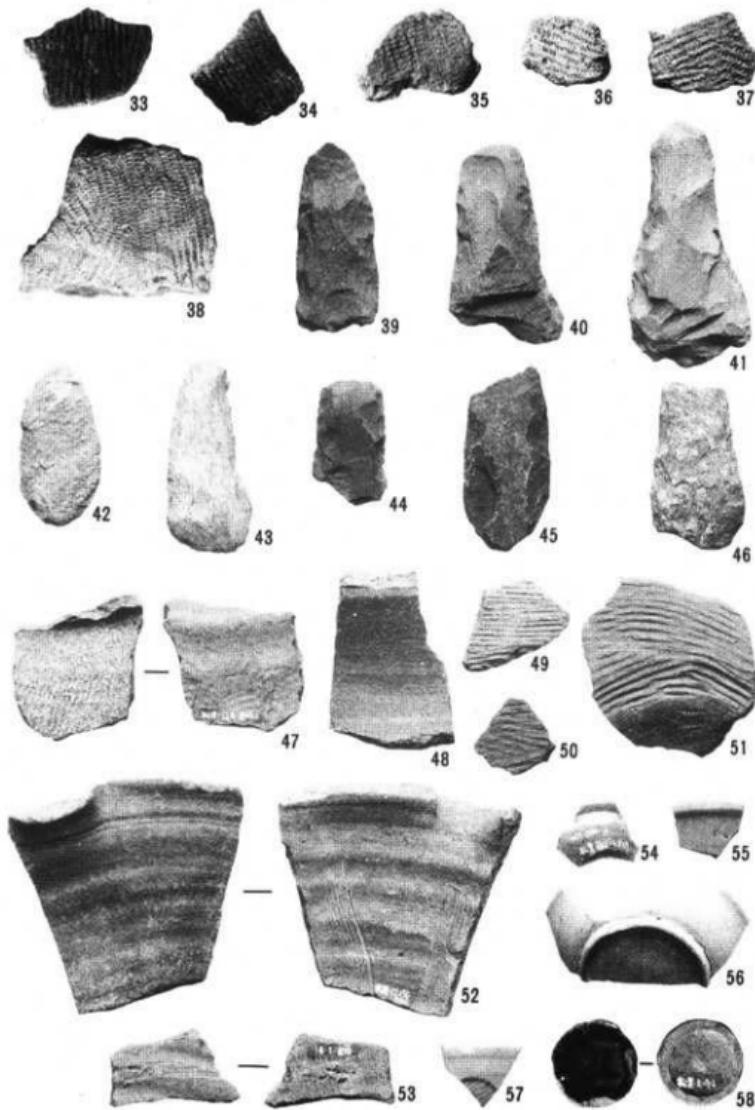
**まとめ** 松葉遺跡は地域住民が從前から縄文土器や珠洲焼を採集していたところで、長岡市史編さん事業の調査で確認された遺跡である。今次調査は、中山間地域農村活性化総合整備事業の計画地に限ってであり、遺跡の範囲は把握できなかった。詳細は今後の調査に委ねるが、地形から東西の沢に囲まれた範囲が遺跡範囲と想定される。遺跡は出土遺物から縄文早期・中期・奈良時代及び15世紀ころの集落跡と思われる。



第18図 松葉遺跡土層柱状図



第19図 松葉遺跡出土遺物 (1)



第20図 松葉遺跡出土遺物 (2)



松葉遺跡遠景（北から）



松葉遺跡近景（北から）



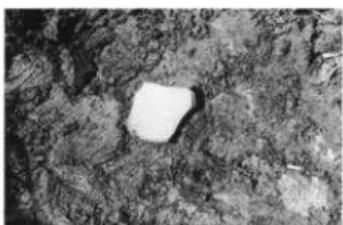
調査風景



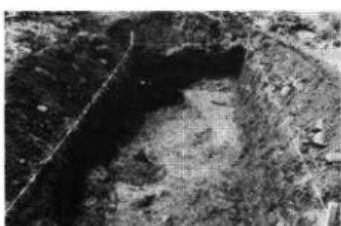
縄文土器出土状況（15G）



打製石斧出土状況（1 G）



珠洲焼土器出土状況（11G）



1 G 完掘状況



24 G 完掘状況

第21図 松葉遺跡確認調査

### 3. 中沢地区

所在地 長岡市中沢2丁目1059

立地(第7図・第23図~第24図) 中沢町の北側で、

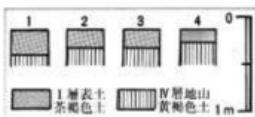
標高約25mの信濃川右岸の沖積地に位置している。現況は畠として利用されている。

**調査に至るまで** 中沢2丁目に詳細な位置は不明であるが、中世の中沢城跡が所在している。このたび土地所有者が調査地に個人住宅を建設する計画が持ち上がり、土地所有者の了解の下に中沢城跡の遺構の有無と中沢城跡との関連性を調査することにした。

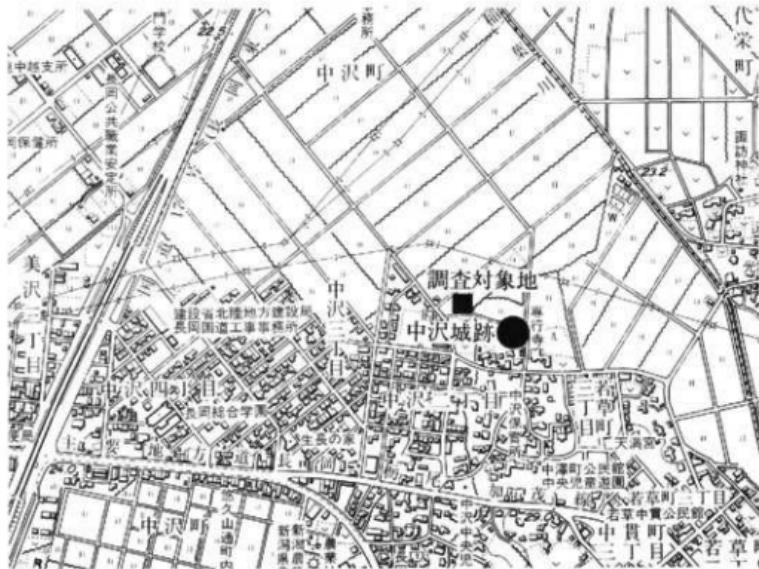
調査(12月14日) 調査対象地の面積は約330m<sup>2</sup>であり、調査は2×3mのグリッドを6ヶ所設けて人力で実施した(調査面積36m<sup>2</sup>)。遺構・遺物は発見されなかった。

**土層序** (第22図) 表土 (茶褐色土) 15~20cmで地山となる。遺物を包含している黒色土は見られなかった。

まとめ 遺構・遺物とも発見されず、土層からも中沢城跡が調査地に及んでいないことを確認した。



第22図 中沢調査地上層  
柱状図



第23図 調査地周辺の地形図 (1/10,000)

#### 4. おわりに

平成4年度の確認調査は、日越地内における長岡市立養護学校建設予定地、栖吉町地内の中山間地域農村活性化総合整備事業計画地及び団体営圃場整備事業計画地、中沢町地内の個人住宅建設地の3地域で行った。このうち、養護学校建設予定地と中沢の個人住宅建設地では未周知の遺跡が存在しないことを確認した。栖吉地区は、平成3年度の確認調査で中世の陶磁器が出土した調査地A・Bと、周知の中道遺跡及び未周知の松葉遺跡を対象とした。出土グリットを中心に調査面積を広げて調査した調査地A・Bでは、遺構・遺物とともに発見されず、遺跡とは考えられないことを確認した。また、中道遺跡は遺物出土状況と地形から約9,200m<sup>2</sup>の面積が範囲と考えられる。松葉遺跡は調査グリットのほとんどから遺物が出土しているが、調査対象地が限定されていたため、遺跡全体を伺うことはできなかった。

なお、松葉遺跡は事業が実施される来年度に発掘調査を行って記録を保存する予定でありし、中道遺跡は今後事業主体者と協議を重ねて遺跡の保護に遺漏の無いようにしたい。



第24図 中沢地区調査グリット図 (1/2,500)



調査地遠景（東から）



調査地近景（東から）



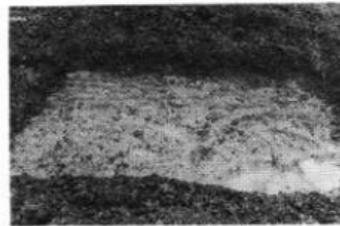
調査風景



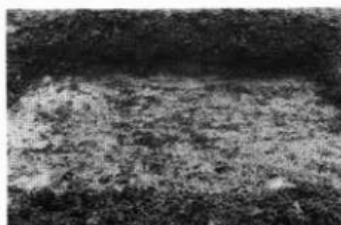
調査風景



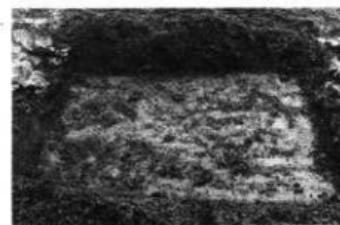
調査グリッド完掘状況



調査グリッド完掘状況



調査グリッド完掘状況



調査グリッド完掘状況

第25図 中沢地区確認調査

## 調査体制

調査主体者 長岡市教育委員会（教育長 大西厚生）  
調査担当者 駒形敏朗（長岡市教育委員会社会教育課）  
調査員 小林伸治（長岡市教育委員会社会教育課）  
調査事務局 長岡市教育委員会社会教育課（課長 松井登喜男）  
調査作業員 地元有志

## 調査に御指導・御協力をいただいた方々

坂井秀弥 佐々木謙昌 佐藤 正 栖吉町内会 栖吉町圃場整備協議会 戸田文一 長岡市農業協同組合 宮下貞雄 水沢美德

---

**長岡市内遺跡発掘調査報告書**

日越地区・栖吉地区・中沢地区

平成5年3月30日印刷 平成5年3月31日発行

発行：長岡市教育委員会

---